

「学生」×「地域」カフェ

「玉城勝田ぶどう祭り」との連携について

三重県戦略企画部企画課

1 「玉城勝田ぶどう祭り」との連携について

「玉城ぶどう祭り」は、玉城町勝田地区の産品であるブドウを広くPRするとともに、生産者の応援や地域の活性化につなげ、生産者と消費者のかけ橋とするイベントです。

平成25年8月31日(土)に開催された第3回「玉城ぶどう祭り」に、県内高等教育機関の学生等14名がスタッフとして参加しました。

「第3回玉城勝田ぶどう祭り」

日時：平成25年8月31日(土)

場所：玉城町勝田

主催者：玉城町青年交流会、玉城町商工会
他

協力：三重大学、三重短期大学、高田短期
大学、皇學館大学 他



2 オリエンテーションの実施、事前準備への協力について

イベント協力にあたり、参加学生に地域の皆さんの活動を知っていただくことを目的にオリエンテーションを開催するとともに、ぶどう祭り開催に向けて地域の皆さんと準備作業を行いました。

1) オリエンテーション、企画検討会の実施について

学生の皆さんに協力いただく内容の説明と、ぶどう祭り実行委員会の皆さんとの顔合わせを兼ねて、以下のとおりオリエンテーションを実施しました。

第1回：平成25年7月6日(土) 15:00～18:30 玉城町勝田「野の花亭」

<概要>

オリエンテーション

- ・自己紹介
- ・玉城町青年交流会からの開催趣旨等の説明
- 第3回玉城勝田ぶどう祭りの企画検討会
- ・ぶどう畑、ふれあい農園など祭り会場の見学。
- ・祭りでの親子来場者向け企画案を学生等から提案、意見交換。

(学生からの主な企画案)

- ・輪投げ
- ・ストライクアウト(ぶどうの房型)
- ・抽選大会(整理券などに添付し、時間を指定。)

- ・スタンプラリー：全体を回って景品を渡す
- ・玉城産ぶどうを愛する言葉を叫ぶ選手権
- ・ぶどうの早食い競争
- ・バルーンアート など



玉城町青年交流会からの説明



自己紹介（同青年交流会）



自己紹介（大学生）



自己紹介（大学生）



同 左



同 左



ぶどう園の現地確認



イベント会場での説明

第2回：平成25年8月17日（土）13:00～17:30 玉城町勝田「野の花亭」

<概要>

本日の活動内容の説明

- ・自己紹介（前回欠席者のみ）
- ・玉城町青年交流会から玉城町でのブドウ農業の現状紹介
- ぶどうの農作業体験
 - ・ぶどう畑にて、収穫作業体験。
 - ・収穫したぶどうの粒を枝から採る作業、ジャム作り体験。

③ぶどう祭り

- ・ブドウの皮とばしゲームの予行練習。
- ・バルーンアートの試作練習、当日の学生の役割検討。

<ぶどう畑でのぶと

業体験>



< ジャムづくり >



2) 前日準備の協力について

学生と実行委員会の皆さんで前日準備を行いました。

○日時・場所：8月30日（土）13:00～18:00 玉城町勝田「野の花亭」

<概要>

① バルーンアート班

- ・学生の発案により、子ども向けの景品としてバルーンアートを制作
- ・飾り付け用バルーンアートを制作

② 調理班

- ・無料配布する「ぶどうアイス」の準備
※使用するジャムは学生が収穫したぶどうを使用
- ・販売用きゅうりスティック準備

③ 遊具製作班

- ・ストラックアウト板のデザイン、製作



イベント当日は来場者のご案内など、参加学生の皆さんにも役割を担っていただき実施しました。

○ 日時・場所：8月31日（日）9:00～17:00 玉城町勝田「野の花亭」周辺会場

<ぶどう祭りの様子>

①イベントブース：三重大学2名、皇学館大学3名

・イベントブースの運営を補助

輪投げ



ストラックアウト



ぶどうの皮飛ばし選手権



・各イベントの案内、スタンプラリー受付などを補助



飲食ブース：三重大学 3名

・飲食物の販売ブースの運営を補助



農産物販売ブース：高田短期大学 4名

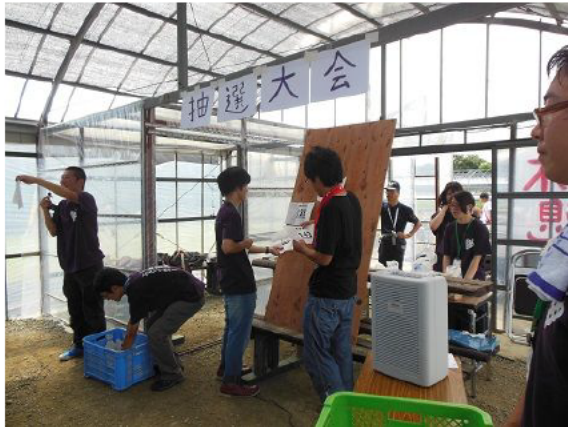
・農家の皆さんの産品販売を補助



ぶどう狩り



抽選会



紙芝居



<撤収作業>

- ・終了後は、青年交流会の皆さんと会場の撤収作業にも協力しました。

4 終了後の振り返り

終了後には、青年交流会の皆さんと学生とで、イベントの感想を発表するなど振り返りを行いました。

<参加学生の感想>

- ・子どもたちや農家の皆さんと交流できて楽しかった。
- ・地元でぶどうを栽培していることも知らなかったのでいい機会となった。
- ・準備の段階から参加して（学生や地域の方と）仲良くなれて良かった。 など

<主催者の感想>

- ・今年も多くの学生に参加してもらって助かった。
- ・地域を知ってもらう機会となったことをうれしく思う。
- ・こういった取組を通じて、若い皆さんにとって何かを学ぶ機会となれば嬉しい。

